ノリ業界の現況

―平成20年度の動向―

平成21年９月

全国海苔貝類漁業協同組合連合会

もくじ

はじめに …… 1

Ⅰ ノリ業界の変遷 …… 2

Ⅱ ノリ生産動向 …… 4

Ⅲ ノリ消費動向 …… 7

Ⅳ ノリ需給動向 …… 10

Ⅴ 資　　料 …… 13

はじめに

平成 20 年度漁期は、一部で低栄養塩や病害による生産阻害もあるなど、決して順調ではなかったものの、漁期前半は養殖スケジュールや環境変化に恵まれたこともあり、幾多の生産阻害要因をクリア、生産量もほぼ平年並みから前年度に比べ上向いた地区も見られた。年が明けても東日本、瀬戸内地区では、栄養塩の減少や病害の発生、拡大も見られたものの、その影響は最小限にとどめられ、まずまず順調に推移した。いっぽう九州有明海は病害発生に悩まされ、生産量は、過去最高となった昨年度に比べ、大幅に減少させることとなった。全国の共販結果だが、枚数で 91 億枚、金額で 800 億円、平均単価は 8.80 円と 3 年続けての 8 円台とふるわなかった。贈答品市場の低迷、家庭用消費の減少に加え、秋口からの金融不安が後押しする景気低迷の影響もあって、他の食品同様に販売状況もさらに厳しさが増した感が強くなった。その影響からか上物を中心に札もふるわなかった。とはいえ業務用商品の在庫については、19 年度漁期の悪夢であった兵庫・明石海峡沖のタンカー事故による生産量の大幅減の影響で、商品が逼迫したところも多く、その手当に早くから各社がしのぎを削った。

外国産ノリの輸入動向については、全般的にふるわず、残量も目立つ。なかでも（社）のり協会が主催する需要者割当てにおいては、韓国での入札会は参加した日本企業も消極的な姿勢が目立つなど盛り上がりに欠いた。また中国産ノリについては 20 年度も出品ならびに入札会の開催には至らなかった。いっぽう同協会による海外での日本産ノリのピーアール活動がフランス・パリ、中国・マカオ、上海などでおこなわれ、海外へのノリ輸出推進が本格化した。

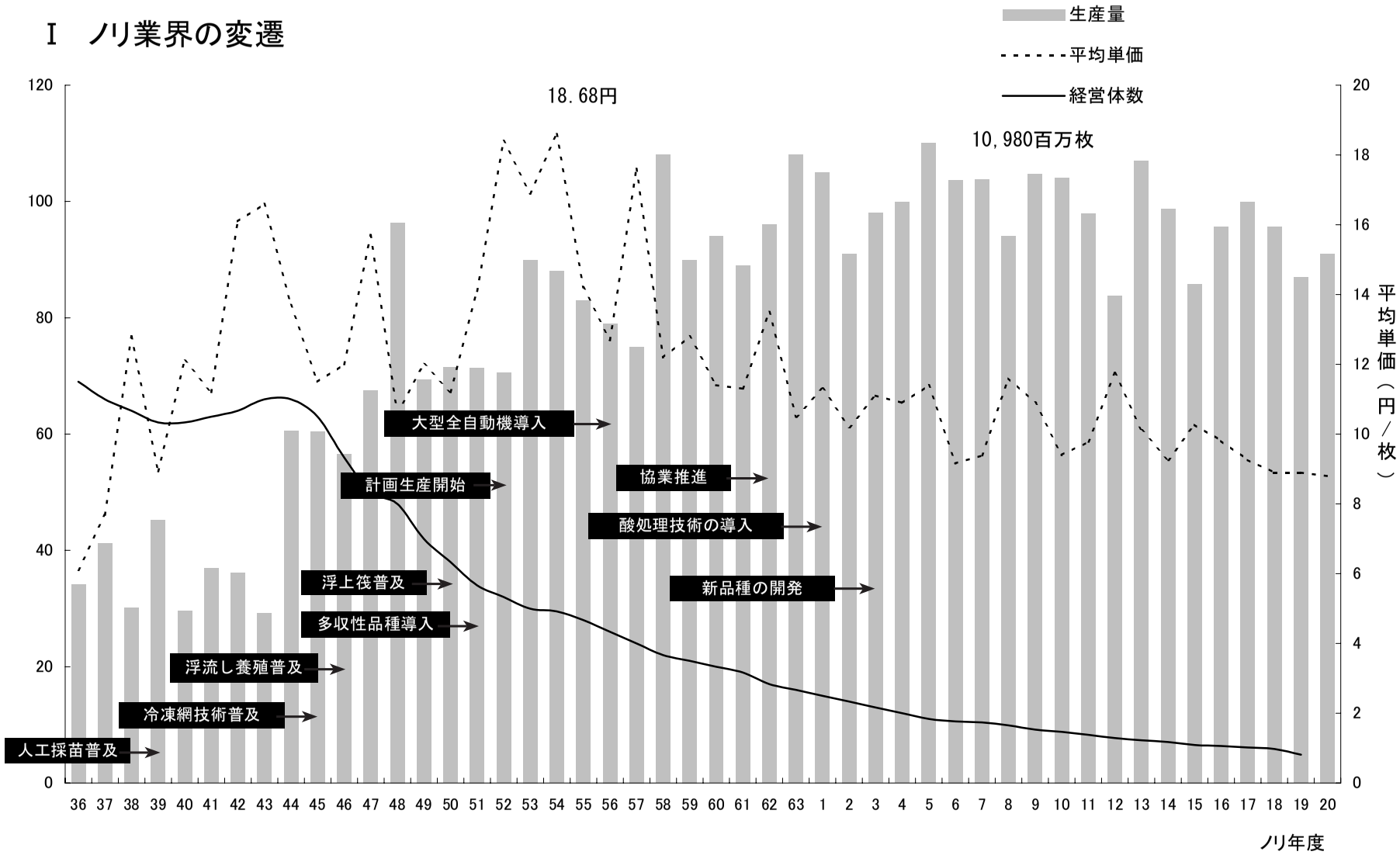
停滞する業界の起死回生を図るべく全国漁連のり事業推進協議会が 20 年度漁期を前に始動させたのが「毎月第 3 土曜日は“手巻き寿司の日”」。東京を中心にイベントが開催されるなど新たなノリ消費拡大に向けての取り組みがスタートした。また前年に誕生したノリのブランド商品「佐賀海苔有明海一番」が贈答商戦に登場、低迷する贈答市場での活躍が期待された。さらにかつてノリの一大生産地であった東京・大森で、その歴史をとどめる「大森海苔のふるさと館」が開館。古きを温め、新しきを知る情報発信の場として、業界関係者から注目されている。

そしてノリ生産者をはじめ水産業界が一丸となって取り組んだのが史上初となる「一斉休漁」。20 年度漁期を前に、燃油高騰による経営悪化を懸念して、漁業者は一斉休漁に踏み切り、東京における漁民大会をはじめ全国各地で声高らかにその苦境を訴え、自らの手で、緊急対策を国から掴みとった。

この小冊子は本会データベースはもとより、農林水産省、水産庁、ならびに全漁連、全国漁連のり事業推進協議会等からの情報、資料提供などの協力を得て、まさに「ノリ業界の現況」を紹介したもの。業界における白書としてご活用たまわれば幸いである。

全国海苔貝類漁業協同組合連合会　漁政総務部

Ⅰ　ノリ業界の変遷



図－１　技術の変遷と生産量、平均単価、経営体数の推移

表－１　ノリ養殖主要指数の推移

	昭和50年	昭和60年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	過去の最高値	
									年	値
経営体数	37,507	20,405	7,029	6,549	6,381	6,121	5,827	4,868	S 36	68,725
施設面積（千㎡）	156,133	125,056	84,769	63,713	63,985	63,022	60,785	－	S 49	187,020
※共販出荷量（百万枚）	6,727	9,075	9,846	8,540	9,542	9,944	8,628	9,089	H 13	10,686
※共販金額（百万円）	75,813	103,562	91,205	87,706	93,619	92,081	76,814	80,029	S 54	154,932
※平均単価（円／枚）	11.27	11.41	9.26	10.27	9.81	9.26	8.90	8.80	S 54	18.68
※１経営体当たり施設面積（千㎡）	4.16	6.13	12.06	9.73	10.03	10.30	10.43	－	H 13	12.67
※１㎡当たり共販量（枚）	43	73	116	134	149	158	142	－	H 17	158
※１経営体当たり共販量（千枚）	179	445	1,400	1,304	1,495	1,625	1,480	1,867	H 19	1,867
※１経営体当たり共販金額（千円）	2,021	5,075	12,976	13,392	14,672	15,043	13,182	16,440	H 19	16,440
事業所得（千円）	3,462	5,462	10,973	11,085	11,095	10,825	5,874	6,933	H 12	13,473
漁労所得（千円）	1,912	2,606	7,654	6,918	7,625	7,478	5,740	6,819	H 13	8,888
漁労所得率（％）	55	48	70	62	69	69	98	98	S 53	98

資料：農林水産省「漁業養殖業生産統計年報」、「漁業経営調査報告」、「2008漁業センサス」　※は全海苔漁連調査

注：１）１柵当たりの網規格は、昭和53年まで＝18.2m×1.2m、昭和54年以降＝18.2m×1.5m

２）昭和59年より同年報は、昭和49年までさかのぼって漁場面積を施設面積に変更。

３）平成18年度漁業経営調査報告から「漁家所得（総所得）→事業所得」「漁業所得→漁労所得」に変更された。

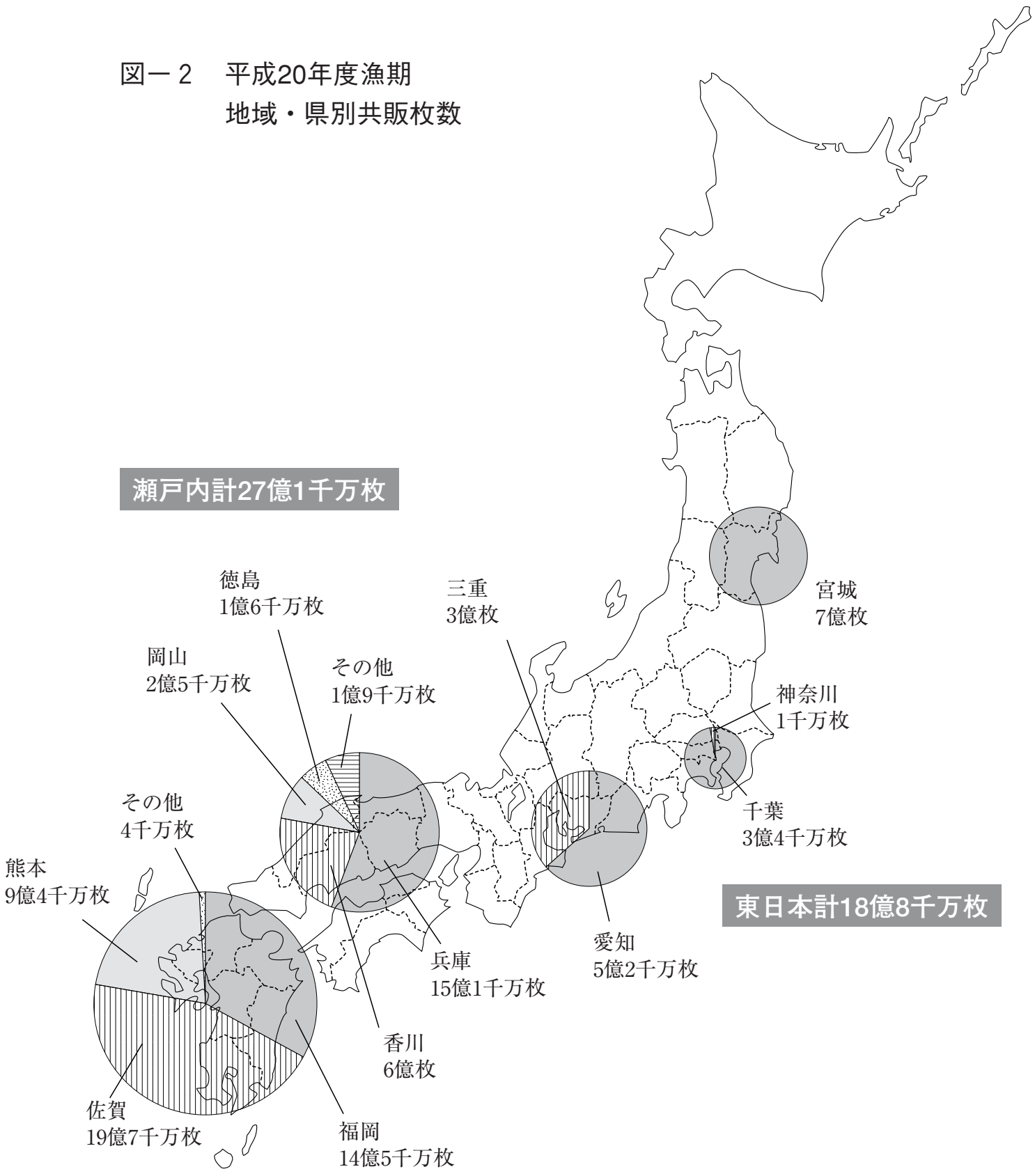
Ⅱ　ノリ生産動向

表－２　過去４カ年の県別共販出荷量、平均単価と全国生産量及び生産金額

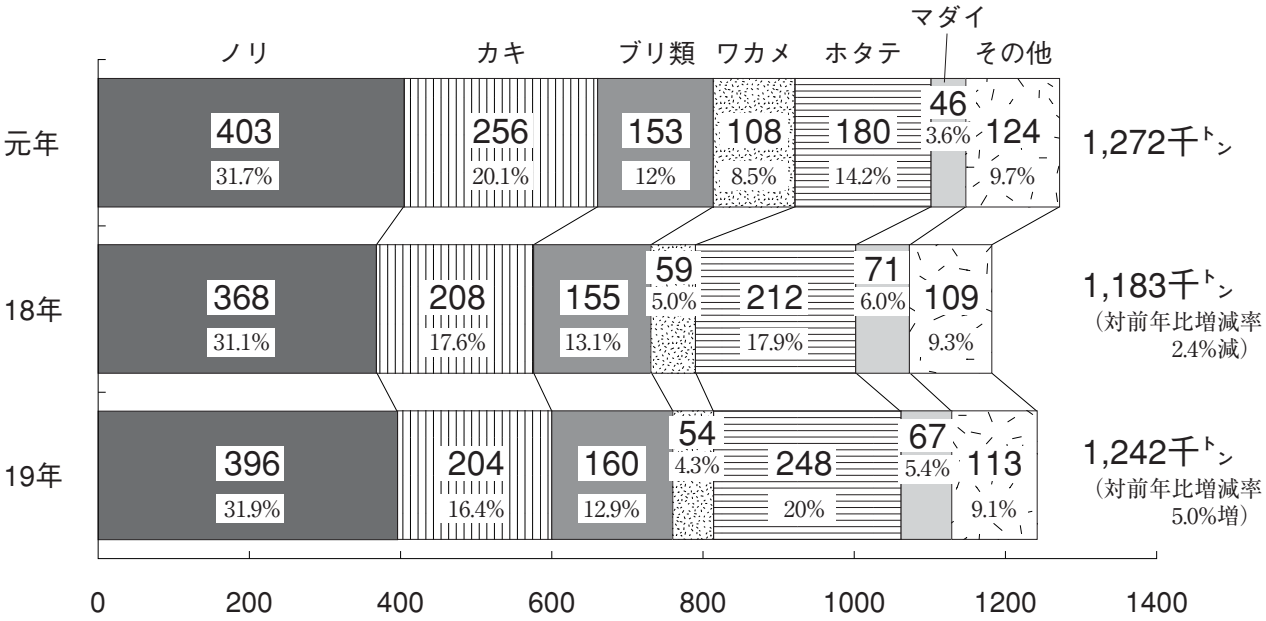
海苔年度 / 単位 / 県名	17年度		18年度		19年度		20年度	
	出荷量 百万枚	単価 円／枚	出荷量 百万枚	単価 円／枚	出荷量 百万枚	単価 円／枚	出荷量 百万枚	単価 円／枚
〔産地共販〕								
北海道	－	－	－	－	－	－	－	－
宮　城	790	8.36	721	7.02	621	7.03	703	8.06
千　葉	450	10.54	338	10.61	417	10.15	340	10.37
神奈川	16	9.11	10	9.80	14	9.40	10	9.09
愛　知	607	9.62	431	9.20	546	9.32	520	9.34
三　重	276	8.56	327	8.10	269	7.68	304	8.42
和歌山	－	－	－	－	－	－	－	－
大　阪	3.8	5.35	1.4	6.57	1.3	5.30	0	0
兵　庫	1,474	8.27	1,615	7.72	749	7.95	1,510	8.03
岡　山	240	7.57	230	7.20	182	6.21	248	7.42
広　島	87	7.20	85	5.95	48	5.67	64	6.55
山　口	96	8.44	87	7.79	63	7.06	61	7.59
徳　島	198	9.08	169	6.93	146	7.42	159	7.50
香　川	502	8.31	679	7.54	321	5.75	598	7.45
愛　媛	90	7.81	69	6.64	63	6.60	67	7.30
大　分	19	5.91	10	6.03	9	4.56	9	4.73
福　岡	1,483	10.28	1,499	9.21	1,588	9.09	1,451	9.13
佐　賀	2,157	10.43	2,130	10.54	2,145	10.72	1,965	9.96
長　崎	28	8.61	21	7.05	24	7.93	25	6.94
熊　本	1,278	8.57	1,017	7.82	1,280	8.64	939	8.91
鹿児島	12	9.69	8	7.34	14	7.95	5	8.72
〔消費地共販〕								
全海苔漁連	137	7.79	119	7.44	126	7.35	112	7.91
共販合計	9,944	9.26	9,568	8.65	8,628	8.90	9,089	8.80
生産量（百万枚）	9,990		9,573		8,655		9,106	
生産金額（億円）	925		828		770		801	

（全漁連、全海苔漁連調べ）

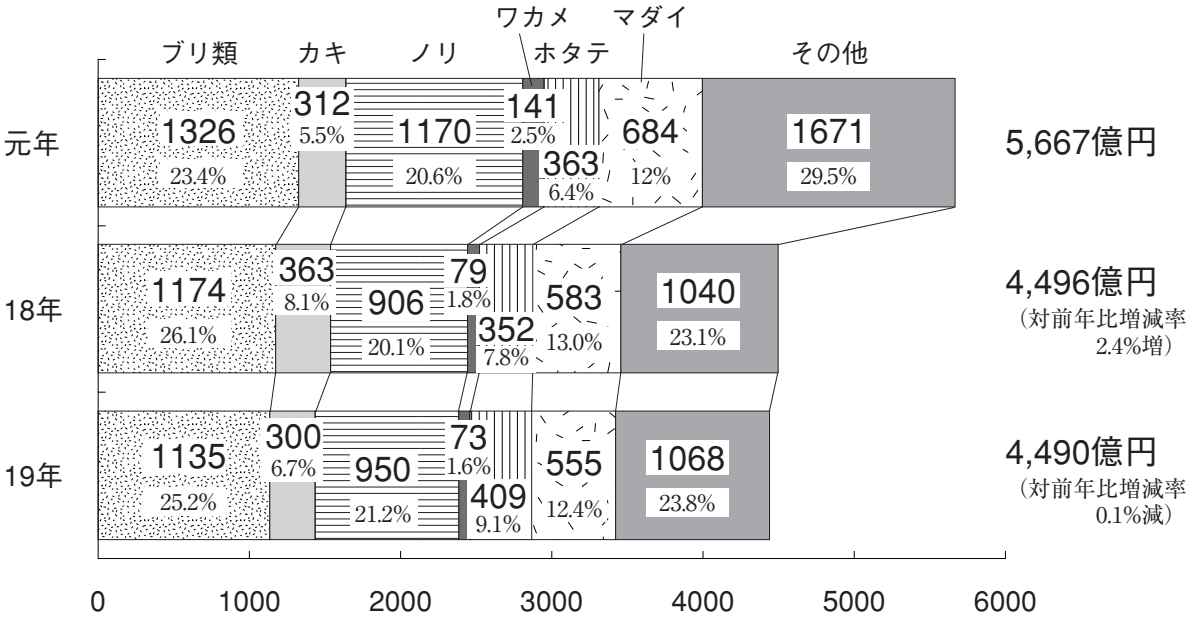
図－２　平成20年度漁期
地域・県別共販枚数



〔生産量〕



〔生産額〕



図－3　海面養殖業主要魚種別生産量及び生産額の推移

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

注：1）生産額の合計には、種苗養殖を含む。

2）生産量の海藻類は生換算、貝類は殻付重量である。

Ⅲ　ノリ消費動向

１．平成20年度の相場動向

単価の動きを週ごとにみると、下図の通りである。例年よりやや遅れ気味ながらも、その前年に比較すればほぼ順調に採苗、育苗を開始した九州有明海の秋芽網は、まずまずの生産推移であったが、贈答筋を中心とする高品質、高価格帯製品への札値は大きく期待を下回った。瀬戸内は栄養塩量がほぼ潤沢で、最悪といえる前漁期を大きく上回り平年並の生産。業務筋を中心に平均単価を押し上げた。東日本は、宮城の病害対策や千葉の天候不順による生産量の伸び悩みにより、相場も沈滞。冷凍網では、九州有明海の相場は全般的に低調。業務用の仕入に注力され、札は伸びず。主力の瀬戸内産は、中級から下物まで意欲的に買い進められた。東日本は宮城が挽回。千葉は気象条件に恵まれず相場も低迷模様。

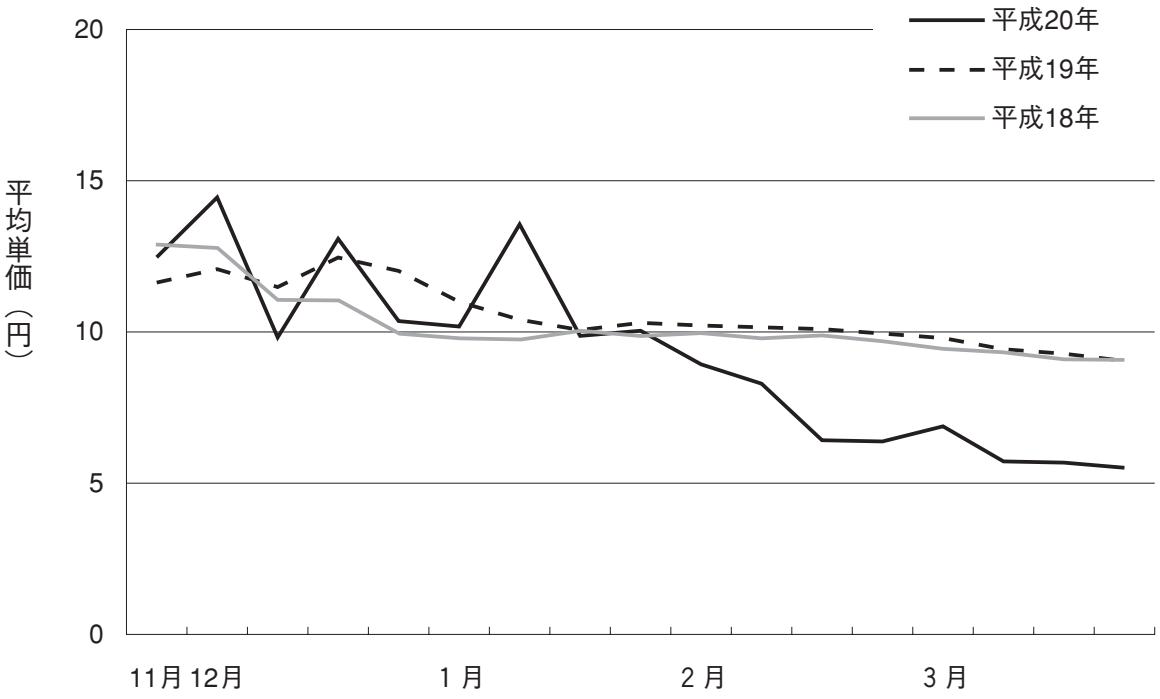
全国的に特筆すべきは、下物を中心とした過熱感。漁期終盤まで、色のない品物でも強い応札が見受けられた。そのため上級品が相場を下げ、下級品は値が下がらず、価格相応の波が小さい相場動向となった。

２．全般的な消費動向

贈答用消費は、依然として明るい兆しは無い。もはや消費動向を左右するだけのシェアを維持できるか否かの境界線にあるといっても過言ではない。

業務用は堅調に推移している。大手量販店が自社ブランド製品に注力する傾向にあり、価格訴求のためノリ関連製品の納入単価は上がらないものの、キャンペーン対象商品へのおにぎりの起用が多く、消費量は底堅い。

家庭用の加工品は、ほぼ横ばいの消費と見られる。下物原料の相場高により、色や味などの品質と価格とのバランスが消費に影響するかが鍵となる。



図ー４　過去３カ年の平均単価の推移（週別「海苔速報」から）

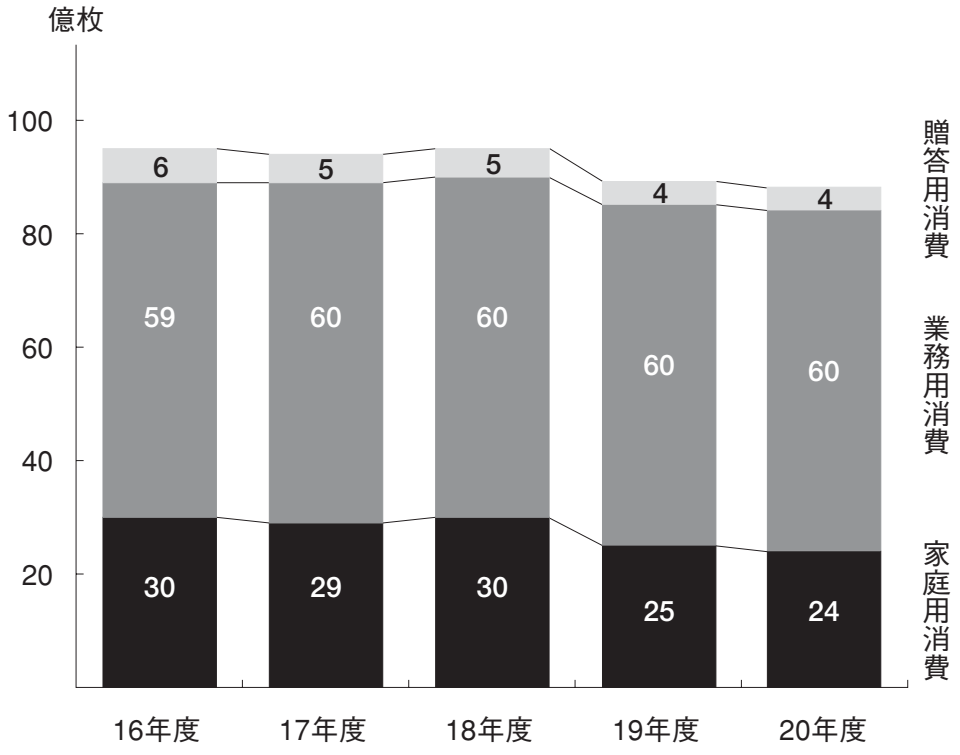
注）11月は共販開始から26日までの累計平均値、３月は23日までの結果

表－３　ノリ推定消費量(率)の推移

〔単位：率は%、枚数は億枚〕

	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	率	枚数	率	枚数	率	枚数	率	枚数	率	枚数
贈答用消費	6	6	5	5	5	5	5	4	5	4
業務用消費	62	59	64	60	63	60	67	60	68	60
家庭用消費	32	30	31	29	32	30	28	25	27	24
合　　計	100	95	100	94	100	95	100	89	100	88

注）年度区分は前年12月～11月

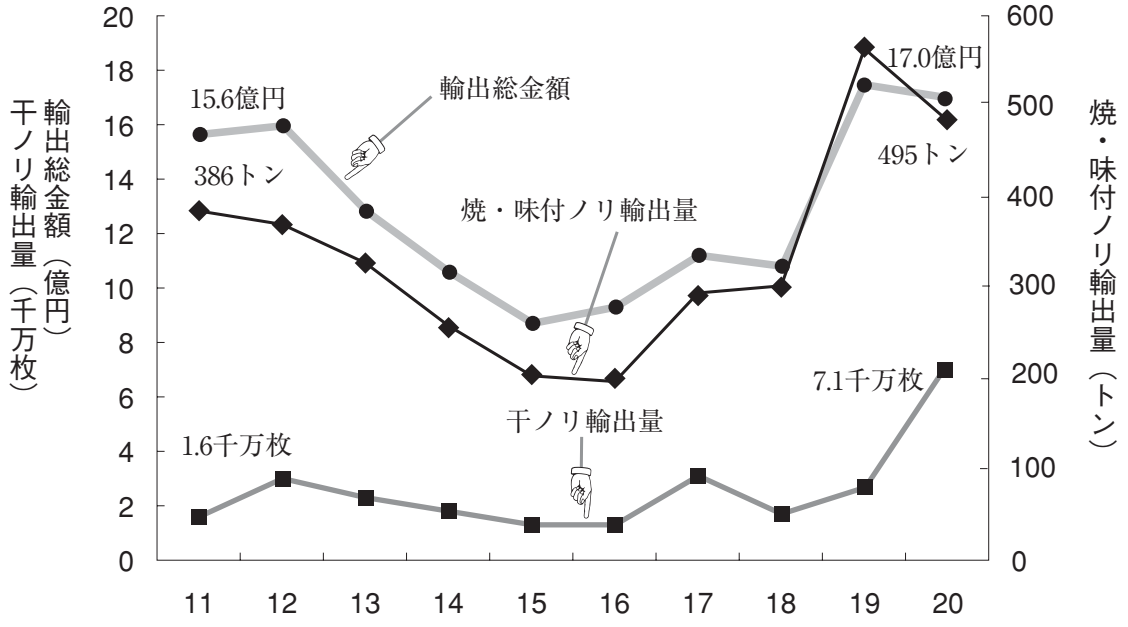


図－５　ノリ推定消費量の推移〔単位：億枚〕

表－４　最近３年間のノリ輸出の推移

順位	期間・単位	平成20年度（１～12月）		平成19年度（１～12月）		平成18年度（１～12月）	
		数量	金額（千円）	数量	金額（千円）	数量	金額（千円）
第一位	国名	アメリカ合衆国		アメリカ合衆国		アメリカ合衆国	
	干ノリ（千枚）	7,684	142,200	4,689	88,999	3,911	90,819
	焼・味（kg）	139,180	237,541	268,867	352,538	112,535	260,334
	小計		379,741		441,537		351,153
第二位	国名	台湾		台湾		オランダ	
	干ノリ（千枚）	27,399	185,578	79	696	789	17,875
	焼・味（kg）	60,416	116,874	61,367	127,587	14,258	75,443
	小計		302,452		128,283		93,318
第三位	国名	シンガポール		香港		香港	
	干ノリ（千枚）	17,070	101,039	84	3,288	21	501
	焼・味（kg）	28,551	56,052	32,842	109,865	33,317	92,063
	小計		157,091		113,153		92,564
輸出総合計	干ノリ（千枚）	70,861	553,606	26,275	565,936	16,969	182,339
	焼・味（kg）	494,522	1,148,206	565,936	1,194,474	299,996	895,128
	小計		1,701,812		1,760,410		1,077,467

財務省関税局貿易統計



図－６　過去10カ年の輸出の推移

Ⅳ　ノリ需給動向

1．計画生産

⑴趣旨

①需要に見合った適正生産量の確保

②製品向上－消費者に歓迎されない粗悪品の排除

③漁家経営の合理化

⑵具体的対策（平成20年度漁期対策より）

①共販期間の設定－地域の実情にあわせ140日を基準とする。

②不良品対策－全国最低基準価格：３円（３円未満は不良品として消却）

③製品向上対策－消費者嗜好に基づく「うまい海苔作り」を推進し、選別、厳正検査の徹底を図り消費拡大につなげる。

表－５　「計画生産」の推移

注)年度はノリ年度

年度	目標生産量（百万枚）	生産量（百万枚）	達成率（%）	生産金額（億円）	平均単価（枚 / 円）	１経営体当たり生産金額(万円)・指数	
49	7,000	6,940	99	836	12.04	197	100
50	6,500	7,150	110	806	11.27	215	109
51	6,800	7,146	105	1,012	14.16	301	153
52	7,100	7,050	99	1,298	18.41	409	208
53	7,300	9,000	123	1,521	16.90	503	255
54	8,000	8,800	110	1,634	18.68	553	281
55	7,500	8,300	111	1,180	14.22	417	212
56	7,500	7,900	105	1,004	12.71	379	192
57	7,500	7,500	100	1,320	17.60	540	274
58	7,500	10,800	144	1,319	12.21	598	304
59	8,000	9,000	113	1,159	12.88	544	276
60	8,000	9,400	118	1,073	11.41	526	267
61	8,000	8,900	111	1,011	11.36	535	272
62	8,000	9,600	120	1,305	13.59	754	384
63	8,000	10,800	135	1,137	10.53	698	354
元	9,000	10,500	116	1,159	11.30	759	385
2	9,000	9,100	101	929	10.21	654	332
3	8,500	9,800	115	1,096	11.18	817	415
4	8,860	9,990	113	1,093	10.94	899	456
5	8,800	10,980	125	1,252	11.40	1,113	565
6	9,800	10,370	106	950	9.16	893	453
7	9,800	10,380	106	975	9.39	941	478
8	9,500	9,350	98	1,084	11.59	1,095	556
9	9,500	10,470	110	1,136	10.85	1,237	628
10	9,500	10,410	110	979	9.40	1,114	565
11	9,500	9,790	103	958	9.78	1,158	588
12	9,500	8,380	88	985	11.75	1,271	645
13	10,000	10,740	107	1,086	10.11	1,476	749
14	9,500	9,879	104	915	9.26	1,302	661
15	9,500	8,580	90	881	10.27	1,345	683
16	9,500	9,570	101	939	9.81	1,472	747
17	9,500	9,990	105	925	9.26	1,511	767
18	9,600	9,573	100	828	8.65	1,318	669
19	9,000	8,655	96	770	8.90	1,644	835
20	8,800	9,106	103	801	8.80	－	－

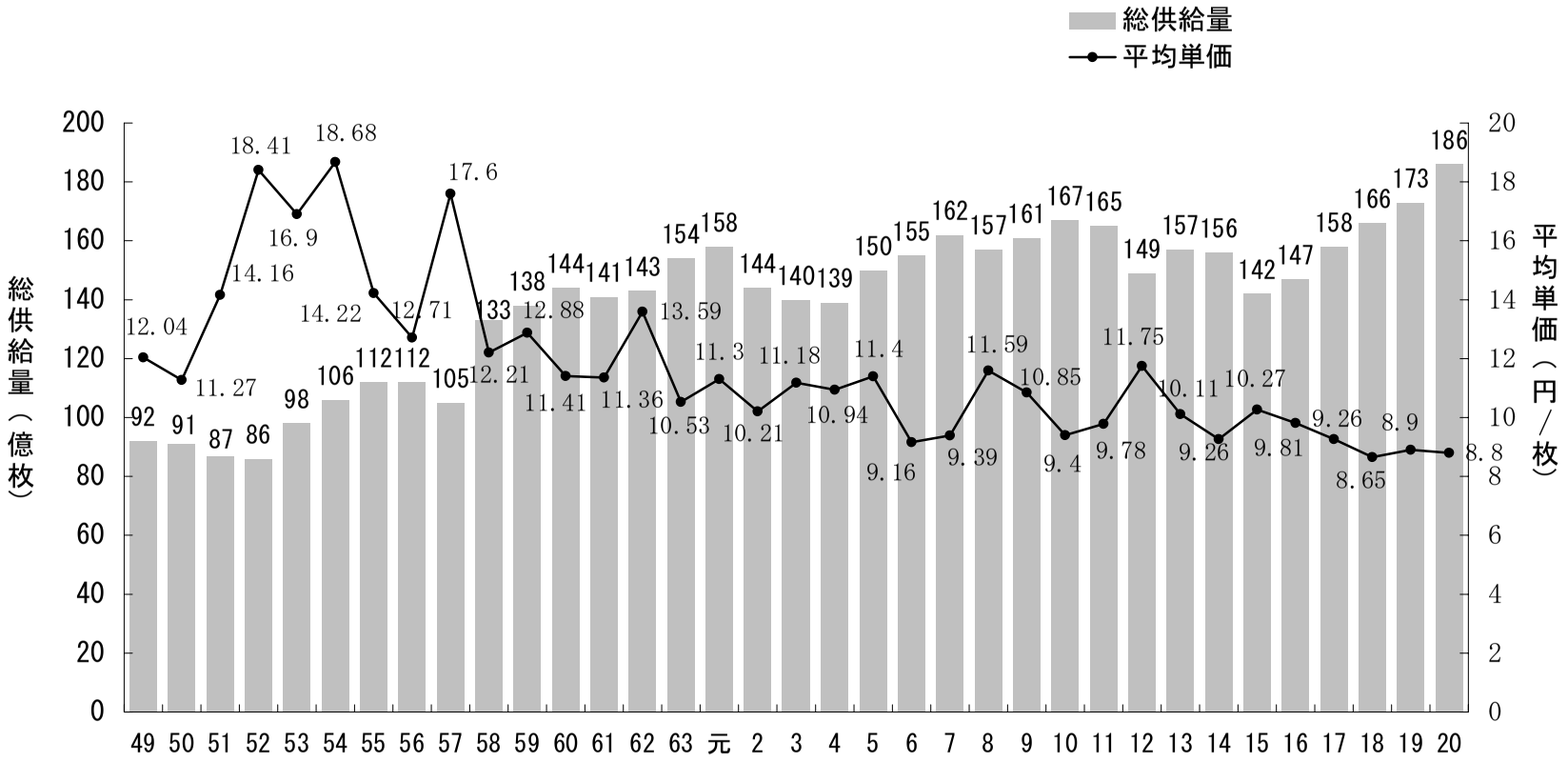
2．需給動向

表－6　需給動向の推移

〔単位：百万枚〕

年度 （　）内はノリ年度	49 (48)	59 (58)	12 (11)	13 (12)	14 (13)	15 (14)
(1)　生　産　量	9,640	10,800	9,790	8,380	10,740	9,879
(2)　前年繰越量	1,000	2,500	6,617	6,327	4,757	5,477
(3)　韓国ノリ	－	－	120	150	180	210
(4)　総供給量 (1)＋(2)＋(3)	10,640	13,300	16,527	14,857	15,677	15,566
(5)　推定消費量	8,400	8,500	10,200	10,100	10,200	10,200
(6)　翌年繰越	2,200	4,800	6,327	4,757	5,477	5,366

年度 （　）内はノリ年度	16 (15)	17 (16)	18 (17)	19 (18)	20 (19)	21 (20)
(1)　生　産　量	8,580	9,570	9,990	9,568	8,655	9,106
(2)　前年繰越量	5,366	4,686	5,256	6,331	7,740	8,491
(3)　外国産ノリ	240	400	585	741	896	1,052
(4)　総供給量 (1)＋(2)＋(3)	14,186	14,656	15,831	16,640	17,291	18,649
(5)　推定消費量	9,500	9,400	9,500	8,900	8,800	－
(6)　翌年繰越	4,686	5,256	6,331	7,740	8,491	－



図－７　「計画生産」実施後の総供給量、平均単価の動き

水産用水基準と生活環境の保全に関する環境基準(環境省)との対比

項目	河川				湖沼				海域			
	水産用水基準		環境基準		水産用水基準		環境基準		水産用水基準		環境基準	
pH	6.7-7.5		類型	A 6.5-8.5 B 6.5-8.5 C 6.5-8.5	6.7-7.5		類型	AA 6.5-8.5 A 6.5-8.5 B 6.5-8.5	一般	7.8-8.4	類型	A 7.8-8.3 B 7.8-8.3
BOD (mg/ℓ以下)	自然繁殖(一般) 3 自然繁殖(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ) 2 成育(一般) 5 成育(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ) 3		類型	A 2 B 3 C 5	ー		ー		ー		ー	
COD (mg/ℓ以下)					自然繁殖(一般) 4 自然繁殖(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ) 2 成育(一般) 5 成育(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ) 3		類型	AA 1 A 3 B 5	一般 1 ノリ養殖場 2		類型	A 2 B 3
SS (mg/ℓ以下)	一般 25 人為的 5		類型	A 25 B 25 C 50	ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ 1.4 温水性魚類 3.0		類型	AA 1 A 5 B 15	人為的 2			
DO (mg/ℓ以上)	一般 6 ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ 7		類型	A 7.5 B 5 C 5	一般 6 ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ 7		類型	AA 7.5 A 7.5 B 5	一般 6 内湾夏季底層 4.3		類型	A 7.5 B 5
大腸菌群数 MPN／100ml以下	一般 1,000		類型	A 1,000 B 5,000	一般 1,000		類型	AA 50 A 1,000	一般 1,000 生食用ｶｷ 70		類型	A 1,000 生食用ｶｷ 70
全窒素 (mg/ℓ以下)					ｻｹ・ｱﾕ 0.2 ﾜｶｻｷﾞ 0.6 ｺｲ・ﾌﾅ 1.0		類型	Ⅱ 0.2 Ⅳ 0.6 Ⅴ 1	水産1種 0.3 2種 0.6 3種 1.0 ノリ養殖 0.07-0.1		類型	Ⅱ 0.3 Ⅲ 0.6 Ⅳ 1
全燐 (mg/ℓ以下)					ｻｹ・ｱﾕ 0.01 ﾜｶｻｷﾞ 0.05 ｺｲ・ﾌﾅ 0.1		類型	Ⅱ 0.01 Ⅳ 0.05 Ⅴ 0.1	水産1種 0.03 2種 0.05 3種 0.09 ﾉﾘ養殖 0.007-0.014		類型	Ⅱ 0.03 Ⅲ 0.05 Ⅳ 0.09
n-ﾍｷｻﾝ抽出物質 (油分等)	検出されないこと				検出されないこと				検出されないこと		類型A	検出されないこと
											B	検出されないこと

注1 ーは基準値が 設定されていない。
注2 水産用水基準の海域と環境基準のノリ養殖利水点ＣＯＤはアルカリ法、環境基準の海域・類型ＢのＣＯＤは酸性法による値である。

水産用水基準と人の健康の保護に関する環境基準(環境省)との対比

(単位：mg/ℓ以下)

項目	水産用水基準		環境基準
	淡水域	海域	
カドミウム	検出されないこと	検出されないこと	0.01
全シアン	0.005	0.001	検出されないこと
鉛	0.003	0.003	0.01
六価クロム	0.0002	0.01	0.05
砒素	0.01	0.01	0.01
総水銀	0.0002	0.0001	0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	0.001	検出されないこと
ＰＣＢ	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.02
四塩化炭素	0.002	0.002	0.002
1,2-ジクロロエタン	0.004	0.004	0.004
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.02	0.02
シス-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	－	－	0.04
1,1,1-トリクロロエタン	0.5	0.5	1
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	0.006	0.006
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.03
テトラクロロエチレン	0.01	0.002	0.01
1,3-ジクロロプロペン	0.002	0.002	0.002
チウラム	検出されないこと	－	0.006
シマジン	0.003	－	0.003
チオベンカルブ	0.001	0.02	0.02
ベンゼン	0.01	0.01	0.01
セレン	0.002	0.01	0.01
硝酸態窒素	9	7	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
亜硝酸態窒素	0.03	0.06	10
ふっ素	0.8	1.4	0.8
ほう素	検出されないこと	4.5	1
ダイオキシン	1pgTEQ/L	1pgTEQ/L	1pgTEQ/L

－ ：基準値が設定されていない。

水産用水基準と要監視項目の指針値(環境省)の対比

(単位：mg/ℓ以下)

項目	水産用水基準		環境基準
	淡水域	海域	
クロロホルム	0.05	0.06	0.06
ﾄﾗﾝｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	－	－	0.04
1,2-ジクロロプロパン	0.06	0.06	0.06
p-ジクロロベンゼン	0.1	0.07	0.2
イソキサチオン	検出されないこと	検出されないこと	0.008
ダイアジノン	検出されないこと	検出されないこと	0.005
フェニトロチオン	検出されないこと	検出されないこと	0.003
イソプロチオラン	0.04	0.04	0.04
オキシン銅	0.006	－	0.04
クロロタロニル	0.001	0.002	0.05
プロピザミド	0.008	－	0.008
EPN	検出されないこと	検出されないこと	0.006
ジクロルボス	検出されないこと	検出されないこと	0.008
フェノブカルブ	検出されないこと	0.003	0.03
イプロベンホス	検出されないこと	0.008	0.008
クロルニトロフェン	0.0009	0.08	－
トルエン	0.4	0.3	0.6
キシレン	0.4	－	0.4
フタル酸ジエチルヘキシル	0.001	0.06	0.06
ニッケル	0.004	0.007	－
モリブデン	0.07	0.07	0.07
アンチモン	0.008	0.4	0.02
マンガン	0.2	0.2	0.2

－ 基準値又は指針値が設定されていない。

(注)「水産用水基準」(2005年版、日本水産資源保護協会編)より抜粋